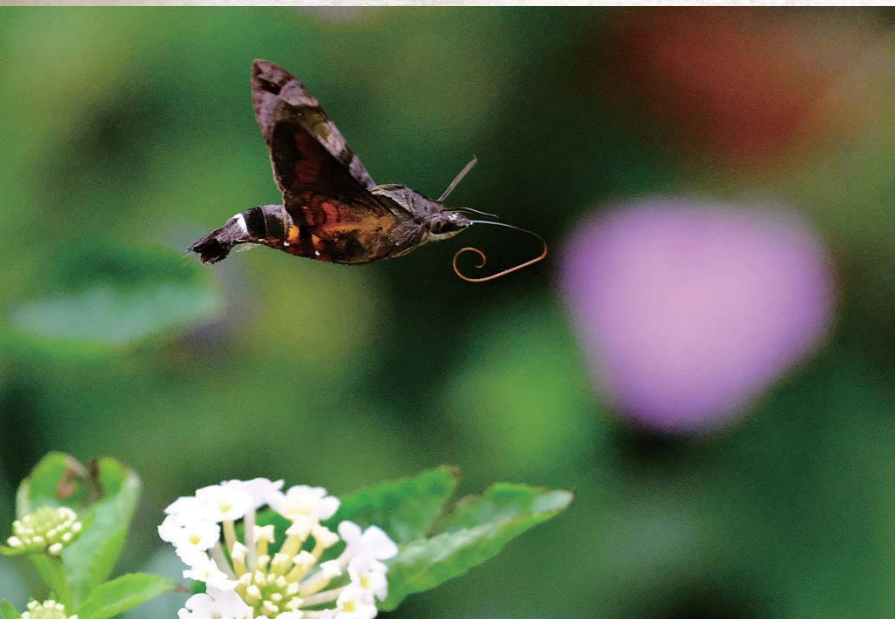




XF200mmF2 R LM OIS WR
 価格90万5580円
 モチーフを背景から浮き上がらせ、より立体的に描写するというモデル撮影は神業が人類に「サンニッパ(300mm F2.8)」をもたらせたことにより始まった手法ですが、一度味わうとクセになりますこのテクニック。このたびはフィルムよりもたらされた200mmは開放F2、そしてとろけるような背景のボケ味でモデルの魅力をより浮き上がらせてくれることでしょう。ま、ウチの子が一番ワイイのですが。あと、1.4倍の1.4X TC F2 WRを同梱しておりますので、より望遠域が必要なスポーツ撮影にもぜひどうぞ！



シャッター速度 1/1300秒
 絞り F2
 撮影感度 ISO160
 フィルムシミュレーション PRO Neg.Std (ポートレート向けモード)



XF50-140mmF2.8 R LM OIS WR
 価格23万5440円

わたしの中で長らくの謎であった、花畑で見かける空飛ぶエビフライ状のイキモノ。ホバリング状態から飛翔の瞬間はX-T3の超高感度ISO12800、高速電子シャッター、チャンスの瞬間を逃さないプリ連写、そしてシャープかつ素早いAF駆動のXF50-140mm F2.8の組み合わせで謎が解けました！コレ、エビフライではなくホウジャクつつ虫でした。国内最速の飛翔速度だそうです、ありがとX-T3&XF50-140mm F2.8。

こ
ん
な
つ
い
こ
の
間
ま
で
は
、
第
一
線
で
動
く
カ
メ
ラ
と
い
え
ば
な
ん
と
い
っ
て
も
一
眼
レ
フ
！
え
？
ミ
ラ
ー
レ
ス
で
す
か
……
せ
い
ぜ
い
良
い
と
こ
サ
ブ
機
も
し
く
は
お
気
楽
お
出
か
け
用
ポ
ジ
シ
ョ
ン
で
し
ょ
……
なん
つ
う
風
潮
で
ご
ざ
い
ま
し
た
。
が
、
こ
こ
最
近
の
ミ
ラ
ー
レ
ス
カ
メ
ラ
の
台
頭
感
と
き
た
ら
。
め
き
め
き
と
実
力
を
つ
け
た
ミ
ラ
ー
レ
ス
と
一
眼
レ
フ
と
が
実
力
拮
抗
、
い
や
い
や
構
造
的
に
機
能
面
で
ミ
ラ
ー
レ
ス
が
一
歩
リ
ー
ド
なん
つ
う
場
面
も
散
見
で
き
ま
す
。
と
、
い
う
の
も
先
日
、
何
台
か
の
カ
メ
ラ
の
オ
ー
ト
フ
ォ
ー
カ
ス
の
テ
ス
ト
比
較
取
材
を
行
い
ま
し
た
と
こ
ろ
、
ミ
ラ
ー
レ
ス
勢
は
フ
ォ
ー
カ
ス
ポ
イ
ン
ト
が
画
面
内
に
広
く
配
置
さ
れ
構
図
の
自
由
度
が
高
い
の
に
比
べ
、
一
眼
レ
フ
モ
デ
ル
で
は
フ
ァ
イ
ン
ダ
ー
中
央
部
分
に
寄
せ
て
配
置
さ
れ
た
フ
ォ
ー
カ
ス
ポ
イ
ン
ト
が
構
図
を
決
定
す
る
際
に
ず
い
ぶ
ん
と
狭
く
感
じ
ま
し
た
。
今
ま
で
は
こ
の
制
限
さ
れ
た
こ
の
フ
ォ
ー
カ
ス
範
圍
で
上
手
に
や
り
くり
し
て
い
た
の
で
す
が
、
今
回
紹
介
す
る
X-T3
の
よ
う
に
画
面
ほ
ぼ
100%
全
域
で
像
面
位
相
差
AF
に
よ
り
フ
ォ
ー
カ
ス
が
素
早
く
合
焦
す
と
な
る
と
も
う
昔
の
AF
エ
リ
ア
枠
に
は
戻
れ
な
く
な
り
ま
す
。
一
度
頂
点
を
経
験
し
た
セ
レ
ブ
が
凋
落
し
て
も
な
か
な
か
生
活
レ
ベ
ル
を
下
げ
ら
れ
ない
の
に
似
て
い
ま
す
。
ま
、
長
ネ
ギ
の
根
こ
の
ト
コ
は
水
に
つ
け
て
お
け
ば
ま
た
生
え
て
く
る
か
ら
捨
て
ち
ゃ
だ
め
だ
……
なん
て
や
っ
て
る
俺
は
そ
も
そ
も
ダ
メ
で
す
が
。
さて、2014年にX-T1が発売されると同時にそのカメラらしいクラシックなスタイルから多くのファンに愛され、いよいよ三代目X-T3になったワケですが、パッと見ると大きな違いは感じないもののダイヤルのサイズや位置が微妙に調整され、より使いやすいようにレイアウトされているのに気が付きます。たとえばボディ左肩のISOダイヤルなどあたくしこれ以上使いやすいカメラは存じ上げません。同じように右肩のシャッターダイヤルと露出補正ダイヤルもこの世で一番直感的に操作できるレイアウトではないかと思うのであります。ま、多機能なデジタルカメラでは「ISO感度」「シャッター速度」「露出補正」以外にも多くの設定や好みの味付けといえるパラメータの操作がありますゆえ、この3つだけの操作性だけでカメラのオペレーションを語ってはイケナイと思うのですが、時にその仕草と

このレンズ、どハマり必至。



XF200mmF2 R LM OIS WRは開放F値2.0の「XFレンズ」初の大口徑望遠レンズ。この圧倒的な解像力とボケ味はすべての撮影において実力を発揮。もう一本のズームレンズXF50-140mm F2.8は防塵・防滴・耐低温設計とXFレンズ史上最高峰の手ブレ補正技術などを駆使するネイチャーフォットの強い味方。

電子写真機愛

Xシリーズ、第4世代突入!

富士フィルム X-T3

第十四夜

香りといわずらっばい瞳だけで恋に落ちてあとはナニも見えなくなるのもまた人生。

この直感操作でX-T3と恋に落ちたアナタはさらに優れたその魅力を目にするワケですが、まずは先代T2の約3倍と言われるAF処理速度と、Xシリーズ第4世代目の「X-Trans CMOS 4」により2610万画素の裏面照射型イメージセンサーは解像度の向上に成功、同時にISO拡張時のISO80からISO51200の幅広い撮影感度域を手に入れました。これはとりあえず撮れます数字ではなく、どの感度でもシャープで実用的な画質なのがX-T3の素晴らしい点なのであります。そしてスポーツなどの動体にも追従するEVFは先代機236万ドットから369万ドットにアップし、フルフレームでは約20コマ/秒、画像サイズ約16.6MPの1.25倍クロップ撮影の場合では約30コマ/秒のブラックアウトフリー連写が可能になりました。これは動体撮影では非常に有利となり、実際の撮影時には想像以上に快適なファインダービューとなります。ほかにも「ACROS」やモノクロ撮影時には温黒調、冷黒調のトーンの調整がプラスマイナス9段階の調整ができたり、フィルムシミュレーションでは富士フィルムらしいコクのある色調がさらに豊かな色の厚みを感じさせるチューニングが施されていたりいたします。

このようにスチール撮影に最適化されたように思えるX-T3ですが、動画方面も手を抜いてはおりませんぞ。滑らかな4K動画は4K60Pの10bit。プロの映像製作の場面でも活躍できます。

それではより高速化された連写性能とAF機能を合わせもつX-T3の魅力を存分に味わっていただくのに今回紹介いたしますのが大口徑望遠レンズXF200mm F2 R LM OIS WRと大口徑軽快F2.8 ズームXF50-140mm F2.8 R LM OIS WRの2本。XF 200mm F2は1.4倍のテレコンバーターを同梱し、単体では換算305mm F2.8の望遠レンズとして、テレコンバーター使用時には427mm F4の超望遠レンズとして最高峰の画質を味わうことができます。また、XF 50-140mmは換算76mmから213mm F2.8の大口徑ながら軽快な望遠ズームとして扱え、5段階手ブレ補正の威力と合わせて幅広いモチーフを捉えるレンズです。

それではタフネスなオールラウンダーX-T3で新たな境地へ、いざ。

色ノリしっとり、シロクロははっきり。日本の色は富士フィルム。

フィルムシミュレーションモードは全16モード、それぞれかつてのフィルムからスタンダードにもPROVIA、ビビッドならVelvia、ほかにもASTIA、クラシッククローム、PRO Neg.Hi、PRO Neg.Stdなど独自のチューニングが施されたカラーモードが並ぶ。またモノクロも調整幅が±9段階と大きく広がりました。



写真と文 織本知之
 最近ウエストバッグが気に入って、まずいえ正確にはソレを愛用するヒトビトといえはよいのでしようが、フードコートで冷たい水筒で続けざまに3杯飲んでる紳士のヒトとした背筋、腰痛なんか怖くねえという体勢で写真を撮るベテランカメラマン、腰も伸ばさず仙仙から東京までハンドルの握った某編集氏、共通していたのが……そう、ウエストバッグ。ぼくも腰にこれを巻かせよう……。

富士フィルム X-T3



有効画素数 約2610万画素
 X-Trans CMOS 4 センサー
 画像処理エンジンX-Processor 4搭載
 最速30コマ/秒高速連写
 フィルムシミュレーションモード搭載
 ISO160~12800(標準)
 ボディ幅約132.5mm×高さ約92.8mm×奥行約58.8mm
 本体質量489グラム
 ボディ価格オープン(実勢20万円前後)
 富士フィルム ファインビックス サポートセンター
 ☎050-3786-1060

ここにホレたよX-T3

トップ部のダイヤルレイアウトは撮影者に安心感を与えてくれる黄金比。左側の感度ダイヤルはISO感度表示に徹底しているのと目で現在の感度が解り、瞬で設定したい感度に切り替えることができる。また露出補正ダイヤルもしかり。撮影中に2大調整したい設定が一瞬で済ませられるこの素晴らしい景色。